

## エコツアーカフェ 2017 を開催しました！

エコツアーカフェでは鳥羽のエコツーリズムを地域の方々に気軽に知ってもらえるよう、さまざまな分野の専門家を講師にお招きしています。

今回は市立化して間もない海の博物館を会場とし、海女をテーマとしたドキュメンタリー番組の上映会を行い、当市の重要な地域資源である海女文化について考える機会とさせていただきます。冒頭のトークセッションでは海の博物館の石原氏の考える海女について語っていただきました。

上映会後の座談会では、実際に海女として活躍している方や新米の海女などが参加し、仕事のやりがいや苦労話の他、会員が海女について普段感じていた疑問について答えていただきました。

### ○エコツアーカフェ 2017 概要

- ・日 付：平成 29 年 11 月 13 日（月）
- ・場 所：鳥羽市立海の博物館
- ・内 容：トークセッション（海の博物館 石原氏×鳥羽市エコツーリズム推進協議会 江崎会長）  
「WONDER WOMEN (Women of the Sea)」の上映会  
カフェスペース「あらみ」での座談会
- ・参加者：協議会会員や海女、地域おこし協力隊、市民の方など計 24 人

### ○写真



トークセッション



試写会の様子



あらみでの座談会（1）



あらみでの座談会（2）

鳥羽市エコツーリズム推進協議会事務局（鳥羽市観光課）

TEL：0599-25-1157 FAX：0599-25-1159 E-mail：kanko@city.toba.mie.jp

参考：新聞掲載記事

11/14中(志)

海女テーマに談笑

鳥羽でエコツアーカフェ



水中用のカメラを手に話す市地域おこし協力隊員の海女ら＝鳥羽市浦村町の市海の博物館で

鳥羽市浦村町、市海人が談笑しながら意見の博物館で十三日、海交換した。女漁をテーマに語り合う「エコツアーカフェ」があり、海女ら約二十「冒険番組

部門を受賞した米テレビ番組「WONDER WOMEN」を観賞。コーヒーを飲みながらの意見交換では、市の担当者が「漁業権をもっと緩和できないか、個別に動き掛けたい」と述べた。

海女になる方法として「地元の漁師と結婚するのが手取り早い」という冗談話も。相差町で潜る男性の「海士」大田豊さん(左)は「女性が潜らないような場所に行く」と笑った。

カフェは鳥羽市エコツーリズム推進協議会が年一回ほど開き、今回は二年ぶり。これまで海底の地質、鳥羽の海草などのテーマで開いてきた。(西山和宏)

平成29年11月14日(火)  
中日新聞(志摩版)

11/15毎(三)

「海女、もっと知ろう」

鳥羽でエコツアーカフェ



鳥羽市浦村町の市立海の博物館で13日、ユネスコの無形文化遺産登録を目指す海女をテーマにした「エコツアーカフェ」が開かれた。写真。現役の海女や海士4人を含む約20人が番組部門賞を受賞し

た、同市相差町の海女2人を追った「WONDER WOMEN」を鑑賞。海女漁の楽しさや危険性、将来への不安などを誇張なく取り上げられた作品に、参加者は見入っていた。

離島の旅を案内する島の旅社推進協議会のスタッフで元市職員の高橋浩代さん(61)は「高齢化や資源の枯渇など上映番組に同感。私自身は昔から潮風にあたりと浮き浮きして」と報告。

男性の海士は「海女さんの行かないような磯で漁をしている。何度も危険な目にあっただけ」と語った。

カフェは、市内の観光事業者や団体、市などで構成する市エコツーリズム推進協議会(江崎貴久会長)が主催した。

【林一茂】

平成29年11月15日(水)  
毎日新聞(三重県版)